

平成28年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）

次 第

日時：平成28年9月27日（火）

午前10時～

場所：東温市役所4階大会議室

1. 開会

2. あいさつ

3. 協議・報告事項

（1）市内バス路線の利用状況について

（2）公共交通情報掲載冊子作成業務の契約業者決定の報告について

（3）予約制乗合タクシーの利用状況並びに今後の運行計画について

4. 閉会

<事前送付資料>

【資料1】市内バス路線の利用状況について

【資料2】公共交通情報掲載冊子作成業務の契約業者決定の報告について

【資料3】予約制乗合タクシーの利用状況について

【資料4】予約制乗合タクシーの今後の運行計画について

平成28年度第2回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委員	備考
1	東温市	副市長	大西 裕	
2	伊予鉄道株式会社	運輸事業本部長	中尾 均	
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田 宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	関谷 俊夫	(欠席)
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	高橋 昭雄	
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	高井 健一	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	木村 圭策	
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷 則篤	
9	東温市区長会	会長	伊達 知元	(欠席)
10	東温市老人クラブ連合会	会長	橋本 政雄	(欠席)
11	東温市婦人会	会長	高須賀 恵美子	(欠席)
12	東温市PTA連合会	副会長	渡部 ゆかり	(欠席)
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原 弘	
14	市民の代表（公募）		藤本 貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手 裕子	
16	松山南警察署	交通課長	玉井 行士	(代理) 今西 誠
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田 淳泰	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (総務・企画担当)	山下 文明	(代理) 池田 幸謙
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 (輸送・監査担当)	谷本 昌啓	
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	居村 大作	

【アドバイザー】香川高等専門学校	准教授	宮崎 耕輔	
------------------	-----	-------	--

平成28年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時： 平成28年9月27日(火) 10:00~11:10

会 場： 東温市役所 大会議室

1. 開会

進 行： これより平成28年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

2. あいさつ

会 長： <挨拶>

3. 協議・報告事項

(1) 市内バス路線の利用状況について

事務局： <説明(資料1)>

会 長： 何か質問等はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： 宮崎先生からは、なにかあるか？

宮 崎： 今回10日間ということで調査をしているが、もともと利用者数が少ない地域なので、平均値よりは、最大の乗降者数、最低の乗降者数での表示が良いのではないかと。

会 長： 各路線に関して具体的な利用者数の目標というものはあるのか？

事務局： 特に今のところは、具体的な目標数値というのは定めてはいないが、どの路線に関しても利用者数が減少していくのは問題であるので、利用者数の向上に努めていきたいと考えている。

横 手： 滑川線の減少に関しては、バスを利用していた中学生が1人いたが、塾に行くのが大変だということで、川内の中心の方に移動したことによってバスに乗らなくなったと聞いている。そのようなことが影響として考えられるのではないかと思います。

会 長： 他に何か質問等はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： それでは以上で市内バス路線の利用状況の報告について終わる。

(2) 公共交通情報掲載冊子作成業務の契約業者決定の報告について

事務局： <説明(資料2)>

会 長： 何か質問や冊子作成に関する提案等はあるか？

谷 本： 予約制乗合タクシーの利用方法の周知や、東温市の観光情報などを多少載せて、市外の方のバス利用を促進するような内容の予定なのか？

事務局： 以前の公共交通便利帳にも載せていたが、今回も予約制乗合タクシーの情報や、市内のバス路線で行くことのできる観光情報などは載せる予定である。

横 手： バスで行くことのできる、東温市内の良い観光地はたくさんあるので、できたら写真なども一緒に載せて紹介してほしい。

谷 本： ツアーなどをする機関等と連携しながら、今回作成する冊子を使って目的地を回ったりするのもよいと思う。

藤 本： 冊子は松山市駅などの東温市外にも置く予定か？

事務局： 伊予鉄道の許可がいただければ、松山市駅等にも配布したいと考えている。

会 長： 他に何か質問等はあるか？

各委員： <質問・意見なし>

会 長： それでは以上で公共交通情報掲載冊子作成業務の契約業者決定の報告について終わる。

(3) 予約制乗合タクシーの利用状況並びに今後の運行計画について

事務局： <説明（資料3）>

会 長： 何か質問等はあるか？

高 橋： 全体で239人が登録しているということであるが、これは上林地区の人口の約何%にあたるのか？また、登録をしないと利用できないという制度であることから、まずは登録者数を増やすことから努力して行ってほしい。

事務局： 上林地区の人口が男性約400人、女性約400人であるから、資料の「登録率の人口比」というところをご覧いただいたらわかるとおり、男性約27%、女性約30%の登録をいただいているという状況である。また、登録者数を増やすということに関しては、上林地区の健康診断の会場や、高齢者サロン等に実際に足を運び、予約制乗合タクシーの周知やチラシの配布等を行った。その際、今まで登録していなかったが、新しく登録しておこうという人がいた関係で、今年度に入ってから4人の新規登録者が増えた。今後も周知に関しては継続して行いたい。

高 橋： やはり、高齢の人でも全員が登録をしていないということは、まだ自家用車等を運転するため、乗合タクシーを利用する必要がない人がいるためか？

事務局： 実際に話を聞く中で、高齢だがまだ自家用車を運転している人や、家族等の送迎がある人に関しては、登録はしているが利用していない人、もしくは登録そのものをしていない人がいるというのが現状である。

横 手： 事務局の方と高齢者サロンに行ったときに、バイクを自分で運転しているという人が結構いた。また、運行曜日が火曜日と木曜日で固定されているので利用することが出来ないと言う人もいた。その中で、タクシー業者との兼ね合いもあるが、毎日運行できるようにしたら、利用者は増えるのではないかと思った。

事務局： 毎日の運行というのは理想的だが、「1便あたりの平均利用者数2.0人以上」という目標があるので、今現在の利用者数が実質16人程度となっており、毎日の運行ということになると、確かに利用者の総数は増えるかもしれないが、目標達成が遠のくのに加え、乗合という趣旨から少し外れてしまう恐れがあるのではないかと考えている。事務局としても悩ましいところで、曜日を増やしたからといって目標の数値が達成できるという保証がないので、まずは目標の達成に向けて続けて運行しながら、達成することができれば運行する曜日を増やしていくといったことは検討したいと考えている。また、毎日の運行になると事業者側の負担が増加するといったところで、事業者側との協議も重要になってくると思う。

横 手： そのような事情もよくわかるが、ぜひ検討していただきたい。

高 橋： 実質の利用者が16人程とのことだが、利用する人は大体同じ人か？また、利用したことがない人に、なぜ乗らないのかといったアンケート等はとったことはあるのか？

事務局： 新規の人も乗る月があるが、大体同じ人が繰り返し乗っている傾向がある。また、アンケ

ートは昨年の2月に1度とった。今年度はまだ実施できていないが、実際高齢者と話を
する
中では、自分で運転をするから利用しないといった意見が大多数であった。

会 長： 事業者の立場として、和田委員何かあるか？

和 田： 利用されているのは70歳以上の女性の高齢者がほとんどで、病院や買い物の際に非常に
助かっているといった声がある。要望として多いのが、医療制度が変わってきた関係で、愛
大病院や、愛媛医療センターなどの総合病院に行くと、個人病院に行ってくださいと促され
るようだ。その中で、みなさん個人病院の利用が多くなっているが、周辺の個人病院へは今
の運行計画では行くことができないので、近くの停留所で降りて、個人病院まで歩くのがつ
らいといった声も増えている。また、帰りの便も11時30分と15時30分ということで、
間が結構空いている。12時くらいに用事が終わった場合、15時30分の便まで買い物な
どをして待っているようである。11時30分と15時30分の間にもう1便あったらいい
のではないかとも思うが、もう1便追加してしまうと、1便当たりの利用者数が減少するこ
とになる可能性があるので、非常に難しいところである。しかし、帰りの便の方が利用者数
が少ないということは、逆に言えば、12時くらいに用事が終わった人が、乗合タクシーが
ないので家族の送り迎えなど、別の手段で帰宅している可能性もある。また、乗降場所で、
郵便局やコンビニエンスストアでも降りられるようにしてほしいという声も上がっている。
運行開始当初は、ほとんど利用する人がいなかったのが不安だったが、現在は、運行日には
ほぼ毎日予約が入っているし、予約にも柔軟に対応できるようにしている。いつも予約をし
ている人が、予約をしていなかったら、こちらから電話をかけるようにして、予約忘れで病
院に行くことが出来なくなるようなことがないように注意している。徐々にではあるが利用
者は増加しているので、乗降場所や運行時間等の検討もぜひしていただきたい。

事務局： 乗降場所や時間に関しては、またアンケート調査等によって実際のニーズを把握したう
えで、今後の検討課題としたい。

谷 本： 高齢者サロン等の場で乗合タクシーを実際に利用している人が、利用していない人に直接
利用の仕方や便利なところなどについてPRしていただくと非常に効果があると思う。実
際に高齢者サロン等でそういった光景はあったのか？

事務局： 以前行った高齢者サロンでは、利用している人が、利用したことがない人に、利用を勧め
る光景が実際にあった。

谷 本： 初めて利用する人は、制度自体は知っていたとしても、1人ではなかなか行動に踏み出す
ことが出来ないのではないかと思う。そのような中で、実際に利用している人が使い方等を
教えてあげて、意外に便利であるということ伝えることが出来たら、実際に使ってみよう
といったことに繋がると思う。

高 橋： 和田委員が先ほどおっしゃられたように、実際に利用しているのは70歳、80歳の高齢
者ということだが、高齢者にとっては100m、200m歩くのも億劫な人も多いので、病
院の玄関まで送迎してくれるというのが理想的で、デマンド交通の強みだと思う。なので、
実際の目的地まで直接運んであげることができるような制度になれば、もう少し利用者は増
えるかもしれない。乗降場所に関してはもう少し弾力的に考えてもよいのではないかと思う。
定期的にアンケート等も取って、利用者の声を聞きながら、要望に対して臨機応変に対応し
たほうが良いのではないかと思う。

事務局： この乗合タクシーは、上林地区の路線バスを廃止したことによる、代替交通として始まっ

た制度であるので、今まで路線バスが停まっていたところをタクシーで代わりに走るということで運行している。そのため利用者にとっては、少々使い勝手が悪いところがあるというのは重々承知しているが、アンケート等を取って要望通りに全て改良していくと、最終的には普通の乗用タクシーと変わることがなくなってしまう。そのような点でも、事務局としては慎重に対応していきたいと考えている。

宮 崎： 高齢者で、バイクや自動車に乗っている人が多いということだが、自分で運転するのは不安と感じている人でも、移動手段が他にないのでやむを得ず利用している人もいないかもしれないというのが気になるところである。また、アンケート調査をしたらいいのではないかという話があったが、実際に利用している人は16人くらいということで、ペーパー式のアンケート用紙を配布して回答が得られたとしても、実際に利用している人の本当の声かどうかが分かりづらい。高齢者サロン等に足を運んで、実際に利用している人の声を聞き取りしていくほうが適切なのではないかと感じている。顔を合わせて話すことで、色々な情報を引き出せるので、そのような方法もよいと思う。もともとはバス路線がなかった地域なので、バスの時間にあわせて行動する習慣がなかった地域かと思われる。アンケート調査で「何時の便が追加されたらいいですか？」という問いを設けたとしても、回答をしづらいのではないか。そういったことも踏まえて、個別に聞き取りをしながら、こまめな情報収集をするほうがよいと感じているところである。一方で、先ほど事務局からも説明があったが、一般乗用のタクシーと乗合タクシーの違いを明確化していないといけないと思う。一般乗用のタクシーと乗合タクシーが同様のサービスを提供するのは好ましくないように思う。最も重要なところは、なぜこの乗合タクシーを導入するに至ったかというところで、地域の方々に外出する機会を増やしてもらいたいというのが当初の目的だったと認識しているが、高齢者サロン等で「外出はどのくらいされていますか？」といった質問で、外出機会が増えたかどうかのヒアリングも大切である。グラフを見てみると、別の年度で同じ月を比較すると、明らかに2年目の方が利用者数は増えている。そういった意味では、当初の思いが地域の人にどんどん伝わっていったのではないかと思う。引き続き今の取り組みを続けていながら、地域に合ったサービスを展開していったらいいのではないかと思う。平成22年度に実施したアンケート調査では、病院としての行き先は大型病院がほとんどであった。そのため、停留所として大型病院を指定していた。しかし、先ほどの和田委員のように、制度の変更に伴って、大型病院ではなかなか診療することが難しくなってきているのであれば、社会環境に合わせて柔軟に対応していくことも大事かと思う。

会 長： 他に意見や質問等はないか？では、いろいろなご意見をいただいたが、基本的には実証運行期間を1年間延長するという事務局の方針で進めてよろしいか？

各委員： <全員賛成>

会 長： 委員の方々の承認を得られたので、次に事務局は、10月以降の予約制乗合タクシーの運行計画案についての報告をお願いします。

事務局： <説明（資料4）>

会 長： 何か質問等はあるか？

藤 本： アンケートはいつやるのか？

事務局： 今のところ、時期等の詳細については未定である。

藤 本： 10月から1年間実証運行期間を延長するということだが、これまでのアンケートや地元

のニーズに合わせて、新しい運行計画で運行するというわけではないのか？

事務局：今のところは引き続いて同じ計画で運行して、その中で適宜見直しを行っていくような形で想定している。

藤本：事務局にお願いしたいのは、登録はしているが利用はしていない人に関して、なぜ利用しないのかというのを浮き彫りにしていただきたいということである。

事務局：前回、平成27年の2月にアンケート調査をして、そのような項目を作って質問したことがある。その際にも、まだ自分で運転したり、誰かに送迎してもらえるからといった理由で利用していないという回答があった。

藤本：それは登録している人もなのか？将来のために今登録しておこうという人たちか？

事務局：登録はしているが、利用はしていないという人もである。将来のために登録しておこうといった人たちである。

会長：基本的には今までの内容で1年間運行するということだが、運行期間内に、委員の皆様方のご意見も踏まえて、内容を変更して運行していくこともあるという考え方でよろしいか？

事務局：検討しながら運行を続けたい。また、アンケート等を実施するとすれば、その結果を踏まえたうえで運行内容の見直しを行い、実際に変更することになれば、協議会を通じて委員の皆様を確認していただき、承認を得ることが出来れば変更するということになる。

高橋：市街地から上林に帰る便では、事前に予約した停留所またはその付近で降車となっているので、上林から市街地に向かう便でもそのような降車の仕方ができるとよいと思う。やはり、利用してもらわないと意味がないので、今後高齢者がまだまだ増えていくと予想される中、交通事故等も問題になってくると思うので、1人でも多く、利用してくれる人を増やしていくようにしたほうがよいと思う。また、他の地区でもバスではなく乗合タクシーを導入してほしいという住民の要望があれば、他地区に拡大していく形にしてはどうか。

事務局：市街地から上林に帰る際の降車については、買い物等の荷物があつたりする関係で、自宅近くまで運行するという制度になっている。市街地に向かう便については、先ほど宮崎先生もおっしゃられたが、普通の乗用タクシーと乗合タクシーとの区別を明確にしておいたほうがよいということから、降車場所については限定的としている。他の地区に乗合タクシーを拡大してはどうかという質問に関しては、平成28年3月に策定した「東温市地域公共交通網形成計画」において、基本理念として「まちを支える公共交通サービスをみんなで10年後に残そう」ということを掲げていることから、鉄道、路線バス、タクシー、全てを残していこうというのが東温市の考えであるので、要望があつたからすぐに路線バスを廃止してデマンドに、といったことはなかなか難しい。

高橋：理想としては確かに、鉄道、路線バス、タクシー全てを残しておくほうが良いと思う。デマンドの本来の役割というのは、人を乗せて、バス停に降ろしてバスに乗り換えてもらうのがベターである。しかし現実的には、乗り換えというのは少し抵抗がある人が多い。高速バスが今人気なのも乗り換えがないといったところである。乗り換えの少ない、直接家から目的地まで行ける乗合タクシーというのがやはり理想的である。タクシー協会としてもデマンド交通に関してはどんどん協力していくつもりであるので、他の市町村のいろいろな事例や取り組み等を調べながら、東温市に合うものを選んでいってほしい。

宮崎：高橋委員のおっしゃるとおりで、全体のバランスを図りながら慎重にやっていかなければならない。事務局からの説明にもあつたが、「東温市地域公共交通網形成計画」において、

10年間は今のネットワークを維持していきたいという考えがある。資料1を見ると、全ての山間バス路線で利用者が減少しているので、利用者向上に向けて対策をしていかなければならないと思う。

会 長： ほかに何か質問等はあるか？なければ、先ほど事務局が説明した運行計画案のとおり、10月から予約制乗合タクシーを継続して運行することとしてよろしいか？

各委員： <全員賛成>

会 長： 委員の皆様にご賛同いただいたので、事務局は10月から引き続き運行を継続できるように準備をしていただきたい。

4. その他

会 長： 本日の議題の他に、何か意見や質問等はあるか？

藤 本： 伊予鉄道にお尋ねしたい。先日報道で、松山市の一部路線が廃止されるというのを耳にしたが、東温市内のバス路線で、現在のところ、どこかを廃止にするといった話はでてきているのか？

中 尾： 今のところ具体的な話というのは出てきていない。

会 長： 他に何か質問等はあるか？なければ、本日予定していた協議、報告事項をすべて終わったので、事務局に進行をお返りする。

5. 閉会

進 行： 以上で平成28年度第2回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。